

登録者一覧

登録年度	登録者氏名	登録分野	登録者プロフィール(授与当時)
令和5年度	ひぎわ 飛澤 りゅうじん 龍神	美術(日本画)	<p>昭和25年(1950)石岡市生まれ、かすみがうら市在住の画家。昭和61年(1986)に上野の森絵画大賞展に入選、秋季新興展にて日本美術協会賞を受賞。平成10年(1998)には新興展文部大臣奨励賞を受賞し、その後も新興展にて数多くの賞を受賞。令和4年(2022)11月には茨城県文化芸術功労者表彰を受賞。</p> <p>家族画、原風景画の他、黒地の背景色や金屏風に描くなど、その時々々の心境を絵画で表現した作品や、自然の美しさや季節の変化をとらえた、四季折々の景色や植物、花鳥、山水など、日本の自然を題材にした作品、霞ヶ浦の水辺を描いた作品がある。</p>
令和5年度	まじま 間島 ひでのり 秀徳	美術(日本画)	<p>昭和35年(1960)取手市生まれ、かすみがうら市在住の画家。平成7年(1995)、かすみがうら市にアトリエを構えた。平成12年(2000)に文化庁在外研修員として、フィラデルフィア(ペンシルバニア大学)、ニューヨークに滞在。平成27年(2015)から令和3年(2021)まで信州大教授、同年(2021)から武蔵野美術大学で教授を務めている。</p> <p>水をテーマに制作し、1980年代後半から個展を中心に活動を続け、2000年代以降は、ギリシア語で「運動」と「変化」を意味する「キネシス」を作品のタイトルとしている。</p>
令和5年度	つが 都賀 としお 俊雄	美術(陶芸)	<p>かすみがうら市(旧千代田町)出身の陶芸家。昭和38年(1963)に茨城大学の教育学部(美術専修)を卒業し、中学校で美術の教鞭を執る。昭和48年(1973年)に辞職し、陶芸の道に入る。郷土で作品の創作と陶芸の指導にあたりつつ、個展の開催も行ってきた。平成12年(2000)3月には、「真空(しんくう)窯(がま)焼成(しょうせい)」に成功し、地元産の粘土を用い、科学的な手法で表面処理を施すことで、独特な光彩を放つやきもの「つくば焼き」を開発した。</p> <p>つくば焼きとは、筑波山系の山々を形作る鉱物を起源とした粘土を用いて高温焼成した素地と、真空容器の中で放電を起こしてプラズマを発生させ、そこにさまざまな金属を高温で蒸発させてその金属粒子をイオンにして加速し、真空容器内にセットされた陶芸作品の表面に結晶を形成する処理法を施して制作された焼きもの。</p>